

様式 3

町民の皆さんから寄せられたご意見及び境町の考え方

令和3年3月3日から3月16日までの14日間、町民の皆さんから「境町学校施設長寿命化計画（素案）」に対する意見を募集しました。

この期間、町民の皆さんから寄せられたご意見及びご意見に対する当町の考え方は次のとおりです。

◎境町学校施設長寿命化計画（素案）について

意見等の趣旨	意見に対する町の考え方	修正内容
<p>ノーマライゼーションの理念に立ち、健康な人も、障害のある人も、誰もが、分け隔てなく、協調して共存していく社会にしなければなりません。そこで、バリアフリー化の推進を提案いたします。玄関のスロープや、手すりの設置、エレベーターの設置を提案致します。</p>	<p>本町の学校施設は、建築から30年以上が全体の6割以上を占めていることから、老朽化に伴う大幅な改修等の必要性が生じております。加えて、バリアフリー整備をはじめとする、学校施設の生活環境における質的整備の向上につきましても、喫緊に取り組むべき課題であることを認識しており、本計画でも25頁に記載する「学校施設整備の基本的な方針」において、「時代のニーズに応じた機能向上」と題し、今後、大幅な改修等を実施する際には、バリアフリーを進め、地域の拠点施設として誰もが利用しやすい施設を目指す旨を掲げております。また、今年度を実施した境小学校校舎の大規模改造におきましても、校内設備のバリアフリー化工事を併せて行うことで、快適な教育環境づくりの推進に努めております。</p>	
<p>予算・経費の面を優先して、学校建物の有効活用を考えれば、統廃合も、これからの少子化の時代には避けられないと考えます。</p>	<p>小中学校の統廃合につきましても、本町でも取り組むべき課題の一つとして認識しておるところでございます。実際に、全クラスが20名を下回る学校や全学年単学級の学校がみられるなど、小規模校化の進行に伴い、学校間の児童生徒数にも偏りが生じ始めており、今後の少子化を踏まえると、この流れは更に加速するものと考えております。これらの状況を踏まえ、本町では、来年度より、学校施設の適正規模・適正配置のあり方に関する検討を進めるものとしております。検討の過程におきましても、保護者及び地域住民に加えて、学識経験者や学校関係者など、様々な立場の者によって構成される検討会での意見交換等も見込まれております。</p>	

<p>学校設備は、大規模災害における、避難所としての役割があり、多くの人々が、より安全に、より迅速に、避難できる環境整備が必要であると考えます。そのために、あらかじめ、ハザードマップを作成し、避難ルートに合わせた、学校建物・設備の配置・レイアウトが重要です。境町が以前体験した、豪雨災害における建物の浸水の前例を考慮しますと、学校建物の高層化・エレベーターの設置が必要であると考えます。</p>	<p>避難所についての学校の役割は、学校施設の有する極めて重要な側面であるものと認識しております。また、浸水被害を想定しての高層化・エレベーターの設置についてのご提案を頂き、ありがとうございます。</p> <p>さて、避難所としての各学校は、災害リスクに応じた役割の明確化が必要と認識しております。ご存知のとおり、利根川氾濫時は町の95%以上が浸水し、各小中学校も全て浸水域内にあります。更に、すり鉢状の地形特性上、一旦浸水した場合は、最大で2週間は水が引かない地域もあります。そのため、各学校は孤立し、ライフラインが途絶えるなどの可能性があるため2次避難を余儀なくされます。</p> <p>そのような特性を踏まえ、大規模水害時の各学校は、あくまでも逃げ遅れた人の緊急避難場所として位置付け、まずは、安全な町外への「広域避難」を第1として整備を進めております。その中でも長田小学校は、他の学校に比べ浸水深が浅く、広域避難の一時避難所としての役割を担い、バリアフリー化やエレベーターが整備されております。</p> <p>また、各学校は地震などの他の災害を主対象として備え、耐震化、防災倉庫の構築や備蓄品の整備などを進めている他、更なる避難所としての機能強化に必要な施設整備について、防災安全課とも連携し、取り組みの検討を進めてまいります。なお、学校の高層化・エレベーター設置などは、就学人口などの学校の将来を見据えた検討が必要と認識しております。</p>	
---	--	--